国産松煙は継承できるか？
錦光園　長野睦さんが決心したこと

関連記事
vol.58 連載「身の丈しごとびとに会いました」（年内ウェブ公開予定）
家業を継いでわかった　失うわけにはいかないもの
長野睦さん

取材・文　さとびこ編集室（阿南セイコ）

❷赤松が採れる森

❶松煙墨の原料となる赤松（渡邊祐示さん提供）
ジンと呼ばれる大枝の付け根部の脂の強いのところが使われる

国産の松煙が途絶えそう

前号の連載「身の丈しごとびとに会いました」で登場していただいた錦光園の長野睦さんは、奈良墨の七代目墨匠として、日本で一番小さな墨工房を継承している。伝統的な墨の原料となる煤には、大きく言って2種類があり、ひとつは奈良時代から続く赤松から作られる煤、もうひとつは安土桃山時代以降に広まった菜種等の植物から作られる煤。どちらも墨の需要が縮小していく中で、鉱物油原料の固形墨や墨汁に置き換わってきた。その中でも、国産としては風前の灯火となっているのが前者の松煙だ。現在、日本でただ一人の煤職人が、和歌山県在住の堀池雅夫さん（写真❹）。

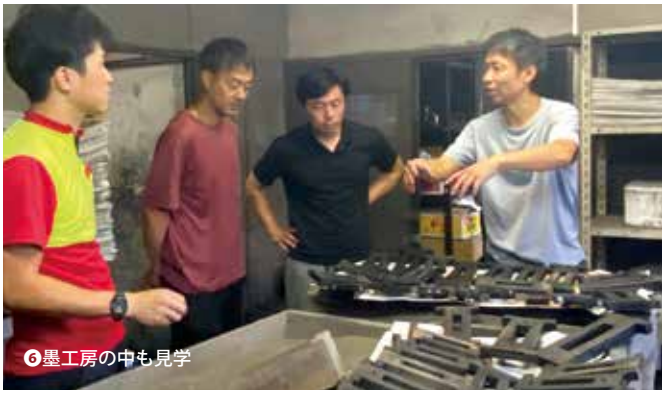
奈良の墨業界では、墨の中でもひときわ希少な松煙墨づくりに積極的ではなくなっている。今でも作り続けている錦光園（写真❸）には、過去に堀池さんから仕入れた松煙煤が残されているが、それも残り少なくなっている状況にある。このままでは本当に日本から国産の松煙の伝統が潰えてしまうことになるかもしれない。この現状を受けとめ、長野さんは「それじゃあ、堀池さんがおられる間に、自分がつないでいく」と決心した。

長野さんからのコンタクト

今年のある日、さとびに長野さんから「森のことで相談がある」とコンタクトがあった。「松煙墨を自分で作ろうと思うんですけど、木の世界のことが全くわからなくて」。これを受けて早速、さと

❺錦光園に集い、奈良墨の説明に耳を傾けるフォレスターたち

❸松煙墨は最高級墨。独特の濃淡や滲みが美しい。



❻墨工房の中も見学

❹国産松煙を作っている煤職人の堀池雅夫さん。長野さんが堀内さんの工房を訪ねた記事は錦光園 HP「奈良墨の人」コーナーに掲載（https://kinkoen.jp/hito/horikemasao/）

赤松と黒松の違い

日本に自生する松の中でもよく耳にするのが赤松と黒松。黒松は樹皮が黒っぽく成長すると深い溝ができ、海岸の防砂林や街道の並木として多く植えられた。赤松の樹皮はサビたように赤くなり、樹脂を多く含み薪の原料として重要視されてきた。

び仲間の久住一友さん（久住林業）に連絡をとると、快く興味を示してくれたばかりか、「関心のあるフォレスターを数人連れていきます」という。7月のある日、錦光園に梶谷真秀さん（五條市、奈良県フォレスター）、渡邊祐示さん（東吉野村、渡邊山業）、そして久住さんという3人のフォレスターが集まった。ちなみに梶谷さんと渡邊さんは、奈良県フォレスターアカデミー（本誌47号参照）の第一期卒業生。同校で講師を務めている久住さんの教え子にあたり、その後も交流が続いている関係だ。

さて、今度は彼らのほうが「墨のことは全くわからない」。そこで奈良墨のなんたるかという説明や工房の見学が行われ（写真❺❻）、長野さんが松煙の継承を意図している思いを語った。

必要なのは赤松

「錦光園には松煙墨を求めてくださるお客さんもいるし、一人の墨職人としても、このまま松煙が途絶えていくのを傍観することがどうしてもできなくて。職人さんが誰もいないのであれば、せめて次の人が現れるまでの間を…現れるとは限らないけれど…自分がつなぐしかないんじゃないかと思う。堀池さんは、自分の技を教えてもいいと仰ってくださっている。ただし、僕が和歌山県まで通うのも、奈良の市街地のどまんなかにある錦光園で煤を作るのも無理があり、どこか通える所に煤工房を設置できる場所を見つけたい。でも、もし見つかったとしても、肝心の材料がなければ元も子もない。松煙墨の原料は赤松に限られている。でもその赤松をどうすればいいのか見当もつかない。なんとかみなさんの力を借りられないだろうか」というものだった。

ここまでの段階では、長野さんの夢物語でしかなかった。「赤松って、いまどきあんまり聞かないような」「あったとしても伐採搬出できるようなところにあるかどうか」などの声が。さとびとしては、接点のなかった伝統産業のプロと森林のプロが出会い、将来に何らかの可能性を残せるのであれば価値があると思えた。そのとき、渡邊さんが口を開く。

「心あたりがあります。一度サンプルを送るので、それで使えそうかどうか、見てください」（写真❶）。後日、五條市でも、梶谷さんから「サンプルが入手できました」の連絡が。なにやら、動き始めたではないか（そのいきさつはいつか伝えたい）。

煤工房の設置は？

そうなるといよいよ、煤工房の設置場所の候補地探しが必要だ。赤松のサンプル話が進む一方で、長野さんのほうでも進展があった。吉野郡のある場所で、設置できる場所が決まったという。あくまで場所が決まっただけで課題は残っているが、みんなで錦光園に集まってから約1ヶ月あまりの間に、絶滅危惧状態から復活の兆しにまで進展したことになる。

次号では、候補地を訪ねた模様をお伝えできそうなので、読者のみなさん、このプロジェクトを引き続きどうか見守ってください！

【奈良産「松煙」復活プロジェクト】今年 11 月からクラウドファンディング開始決定！
同時にスポンサーも募集中。お問い合わせは錦光園 https://kinkoen.jp まで！